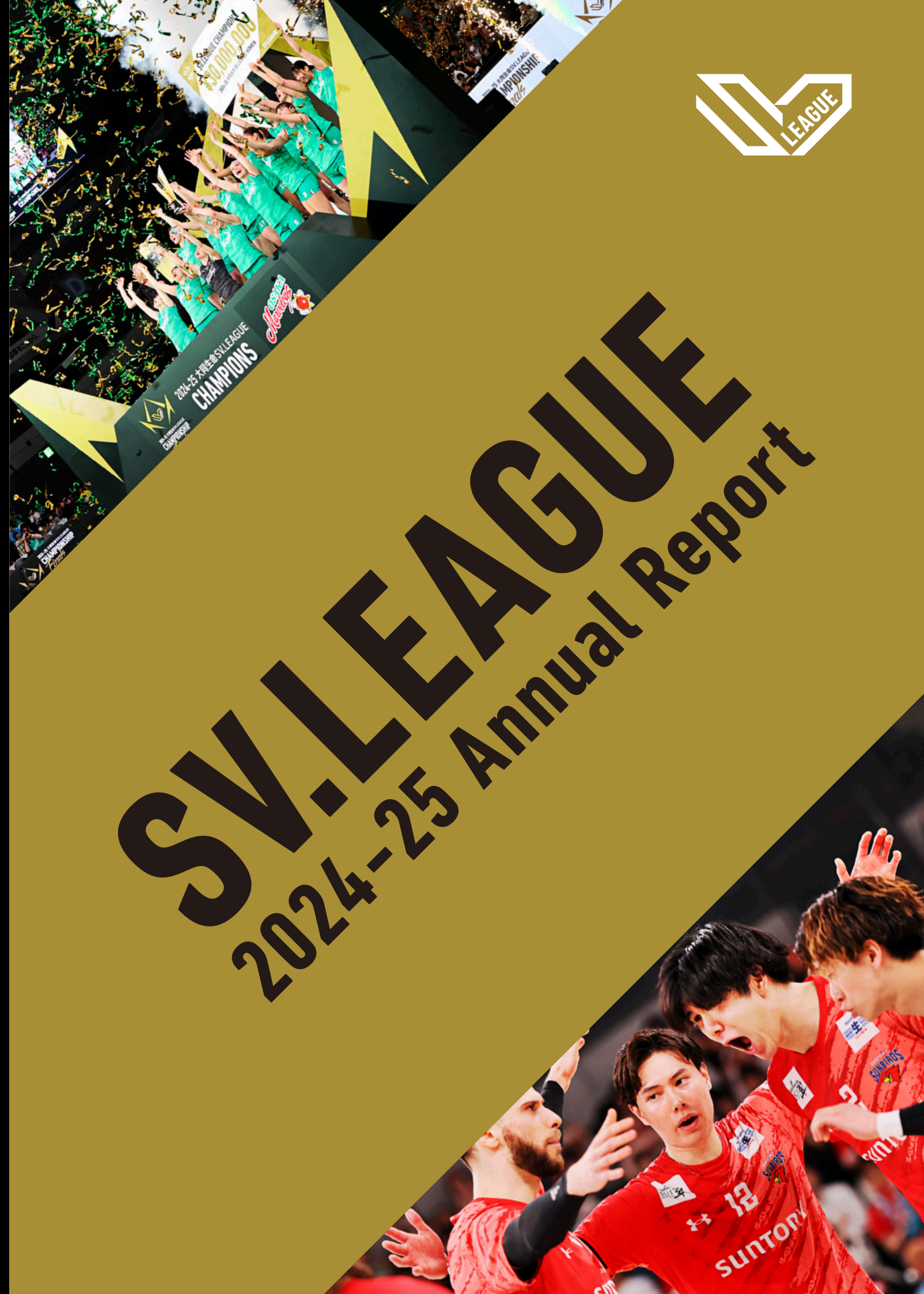




SV LEAGUE

2024-25 Annual Report



INTRODUCTION

2024年、バレーボールを愛するすべての人たちの想いが結実し、
日本に新たなトップリーグ「SV.LEAGUE」が誕生しました。

初年度となる2024-25シーズンは一定の成果を収めた一方で、
さまざまな課題や気づきにも直面しました。
これらはリーグが真に成長するための貴重な学びとなりました。

SV.LEAGUEは「2030年、世界最高峰のリーグを目指す」というビジョンのもと、
成果だけでなく課題や反省も含めて、真摯に共有することこそが
リーグの透明性と信頼性、そして発展への第一歩であると考えています。

本レポートはファン・クラブ・選手・パートナー企業・地域社会など、
すべてのステークホルダーとともにSV.LEAGUEの現在地を確認し、
次のステージに向けて共に歩んでいくための対話の起点を作ることを目的としています。

多様な視点を取り入れながら、SV.LEAGUEはさらなる飛躍を目指し、
これからも挑戦を続けていきます。

SV.LEAGUEの輝ける未来を目指し、皆様にも共に歩んでいただければ幸いです。

CONTENTS

4 ABOUT SV.LEAGUE

- 6 SV.LEAGUE カレンダー
- 7 所属クラブ
- 8 チェアマンメッセージ
- 9 理事・実行委員紹介
- 10 財務情報
- 11 クラブライセンス
- 12 GO FOR 2030

16 VOLLEYBALL

- 18 シーズンデータ (WOMEN)
- 19 シーズンデータ (MEN)
- 20 オールスターゲーム
- 22 2024-25 シーズン アウオーズ
- 24 競技運営・強化・普及育成

26 FAN

- 28 入場者数・チケットデータ
- 29 SNS
- 30 メディア
- 31 リーグの取り組み

32 PARTNERSHIP

- 34 大同生命保険株式会社対談
「価値共創のパートナーシップ
～ SV.LEAGUE 初年度の挑戦と、
その先に見据えるもの～」
- 36 株式会社リクルートスタッフィング活動紹介
- 37 株式会社三菱 UFJ 銀行活動紹介

38 BEYOND THE COURT

- 40 社会貢献活動
- 42 海外との取り組み

ABOUT SV.LEAGUE

BRAND LOGO



ブランドロゴは、世界最高峰のリーグを目指し、ステークホルダーの皆様にはプレミアムな体験を提供すること、そのために変化を恐れずやかに頂点を目指して挑戦し続け、ファン・地域・社会を広く強くつなげていくというSV.LEAGUEのコミットメントを表現しています。

広く、強く、ダイナミックにバレーボールを通じて社会をつなげていくというSV.LEAGUEの姿勢を、「S」と「V」を構成するラインのつながり・拡がりで表しています。

また、メインカラーのゴールドは、SV.LEAGUEが目指す「世界最高峰」をイメージしています。

MISSION, VISION, VALUE

SV.LEAGUEが掲げるミッション、ビジョン、バリューは、リーグの「核」となる重要な要素です。

MISSION

果たすべき使命
成し遂げたい目標・存在意義

強く・広く・社会とつなぐ

Strong, Spread, Society

VISION

目指すべき姿
目指す将来の姿・理想像
(時間軸で変わるもの)

世界最高峰のリーグ ~GO FOR 2030~

世界のトップ選手が集まる最高品質のゲームの提供

社会課題解決型の価値創造

地域・社会とつながるバレーボールコミュニティの創出

VALUE

生み出す価値
様々な体験を通して
創造する価値

GATHER

ALIGNMENT

公益財団法人日本バレーボール協会との連携強化

公益社団法人SVリーグは、公益財団法人日本バレーボール協会(JVA)と連携を強化し、日本バレーボール界のさらなる発展に向け、新たなプロジェクトを始動しました。事業開発やマーケティングの視点から、事業規模の拡大、競技力の向上、そして普及促進を包括的に進め、世界のバレーボール界をリードする存在を目指しています。

本プロジェクトでは、「マーケティング事業」「ID・ファンクラブ」「強化・育成・普及」の3つのワーキンググループが設置され、各団体から専任のリーダーとメンバーがアサインされました。

バレーボールを取り巻く環境が大きく変化するなか、競技団体の垣根を超えたオールジャパン体制による包括的な取り組みは、日本バレーボール界の成長を加速させる大きな原動力となることが期待されます。

CALENDAR

2023

SVリーグ構想
[V.LEAGUE REBORN]を発表

April

2024

April

大同生命保険株式会社と
タイトルパートナー契約を締結

June

株式会社ジェイ・スポーツと
オフィシャルブロードキャスティングパートナー契約を締結

July

「一般社団法人SVリーグ」と
「一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ」に法人を分割

September

2024-25 大同生命SV.LEAGUE
開幕記者会見を実施

October

大同生命SV.LEAGUE開幕
MEN OPENING MATCHを地上波(フジテレビ)で生中継

November

有明アリーナでのリーグ主管試合
(サントリーサンバーズ大阪vs東京グレートベアーズ)で
国内リーグ戦史上最多入場者数記録(11,599名)を更新

December

日本バレーボール協会との連携強化を発表
(共同記者会見を実施)

2025

January

MUFG SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25
ISHIKAWAを開催。石川県への義援金募金と
チャリティーオークション実施

March

選手・クラブのプロ化推進・オンザコートルールの改正の
実施時期を2026-27シーズンからに前倒しすることを発表

April

レギュラーシーズン終了。WOMENは大阪マーヴェラス、
MENは大阪ブルテオンが初代レギュラーシーズン王者に

May

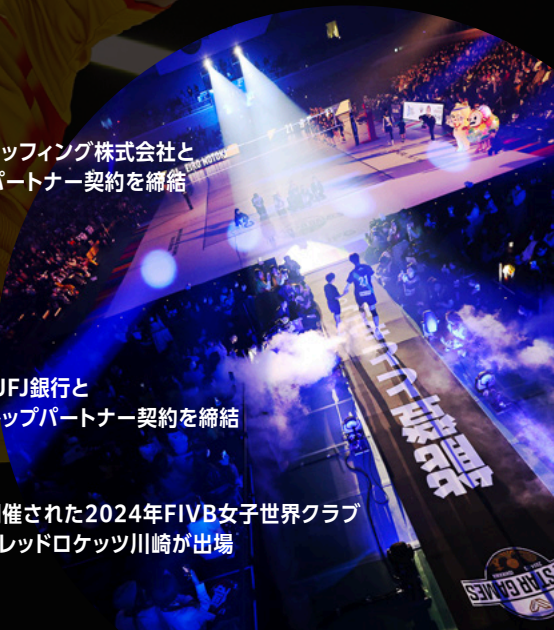
有明アリーナ/LaLa arena TOKYO-BAYで開催された
チャンピオンシップファイナルで、
WOMENは大阪マーヴェラス、
MENはサントリーサンバーズ大阪が初代チャンピオンに

リクルートスタッフィング presents
大同生命SV.LEAGUE AWARDS 2024-25を開催。
WOMENは林琴奈(大阪MV)、MENはニミル・アブデルアジズ
(WD名古屋)がレギュラーシーズンMVPに選出される

大阪・京都で開催されたアジアチャンピオンズリーグ
男子ジャパン2025で大阪ブルテオンが準優勝

July

一般社団法人SVリーグが公益社団法人へと移行



CLUBS

ABOUT SV.LEAGUE



14
CLUBS

WOMEN
MEN

10
CLUBS



※クラブのロゴは2024-25シーズンのロゴを使用しております。

CHAIRMAN'S MESSAGE



初年度の御礼と、未来に向けて

SVリーグ チェアマン

大河 正明

Masaaki Okawa

2025 年 7 月 1 日付けで、一般社団法人 SV リーグ (SVL) は内閣総理大臣から公益社団法人の認定を受けました。この認定を機に、日本におけるバレーボールの競技力を世界最高水準とすること、そしてバレーボールを通じて地域共生や社会課題の解決に貢献し、グローバルでスポーツの社会的価値を高めることにより一層注力してまいります。

ちょうど 1 年前の 7 月 1 日に SVL が誕生し、関係各位のご尽力とファンの皆様の温かい応援に支えられて、大同生命 SV.LEAGUE の記念すべき最初のシーズンを無事終えることができました。初年度は 112 万人を超えるお客様に会場に足をお運び頂き、また配信でも非常に多くの方々に試合をご覧頂きました。改めて厚く御礼申し上げます。

そして迎える 2025-26 シーズンは、次シーズンからのリーグ完全プロ化に向けた重要な 1 年となります。SV 下部リーグの創設や新たな大会形式など、プロフェッショナルの冠にふさわしいリーグの在り方を議

論し、様々な改革を推進してまいります。また、将来的な選手会設立に向け、選手たちとのコミュニケーションルート整備にも着手しております。「2030 年に世界最高峰のバレーボールリーグになる」という確固たるビジョンの下、選手との対話も重ねながら歩みを進めてまいります。

全ての活動の根幹には、我々 SVL のミッションである「強く、広く、社会とつながり」があります。パートナーの皆様をはじめとする様々なステークホルダーの方々と共に、グローバルに枝を伸ばし、同時に地域に根を張り、揺らぐことなく挑戦を続けてまいり所存です。引き続き皆様のご支援、ご鞭撻を賜れますと幸いです。

2025 年 7 月

公益社団法人 SV リーグ
代表理事
一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ
代表理事 CEO

大河 正明

MESSAGE OF EXECUTIVES

ABOUT SV.LEAGUE

業務執行理事



江川 剛司

株式会社仙台 89ERS
取締役 経営企画室長
霞ヶ関キャピタル株式会社
財務本部事業開発発部顧問

皆様、初年度お疲れ様でした。期待以上の盛り上がりとなり、心踊る瞬間が多くありました。しかしながらこれに満足することなく、Attack The Top の精神でスピード感を持って改善していきましょう。

理事



荒木 絵里香

トヨタ車体株式会社
チームコーディネーター

バレーボール、そして SV.LEAGUE の魅力をより多くの方にお届けできるよう、発展と社会への貢献を目指し、これからも尽力してまいります。



金川 裕一

公益財団法人日本バレーボール協会
副会長
株式会社エル・ディー・エス
取締役会長

国際大会などの盛り上がりでバレーボール人気が高まる中で開幕した SV.LEAGUE は、期待に違わぬ熱気のある試合の連続でした。リーグが起爆剤になり、子供たちに夢と希望を与えてほしいと願っています。



刈屋 富士雄

株式会社立飛ホールディングス
執行役員

実況アナとしてバレーのトップリーグに関わり始め 40 年、ようやく見られた景色に感動しました。近い将来、世界のスポーツファンがバレーボールのメジャーリーグは日本にあると口にすることは必ずです。



久保田 剛

パナソニックスポーツ株式会社
代表取締役社長

SV.LEAGUE の成長に微力ながら、精一杯貢献したいと考えております。理事として、実行委員会の議論内容をできるだけ正確に伝えること、またクラブ経営現場の実情を踏まえた発信を意識します。



杉山 明美

株式会社クリスタル・
SUGIYAMA AKEMI
代表取締役

選手の皆さん、スタッフの皆さん、そして運営やサポートに携わってくださったすべての関係者の皆様が、SV.LEAGUE 発足の第一歩を共に挑戦・努力してくださったことに心より感謝申し上げます。



高田 春奈

株式会社エスプリング
ホールディングス 代表取締役社長
公益財団法人日本サッカー協会
常務理事

長く日本で愛され、結果を残してきたバレーボールという競技が、より一層日常に根差していくこと、世界トップクラスのバレーボールをお見せすること、それが SV.LEAGUE の目指す姿だと思っています。



玉上 進一

株式会社プレスステージ・インターナショナル
代表取締役

初年度が成功裏に終了したこと、一理事として心よりお礼申し上げます。最高の興奮と感動を与えるエンターテインメントをお届けする一端に私も一人の理事として関われることを非常にうれしく思っております。

監事

中村 克己

国広総合法律事務所
パートナー弁護士

矢野 奈保子

矢野公認会計士事務所
代表 公認会計士

山内 哲矢

東レアローズ滋賀

當麻 浩之

大阪マーヴェラス

上原 光徳

ヴィクトリーナ姫路

山河 義弘

岡山シーガルズ

実行委員

米田 大介

アランマーレ山形

杉岡 憲

デンソーエアリービーズ

田村 和弘

Astemo リヴァーレ茨城

小早川 武徳

SAGA 久光スプリングス

池田 憲士郎

ヴォレアス北海道

堺 大輔

東京グレートベアーズ

大矢 芳弘

VC 長野トライデンツ

佐藤 公彦

群馬グリーンウイングス

山崎 佳紀

埼玉上尾メディックス

中村 貴司

NEC レッドロケッツ川崎

山内 哲矢

東レアローズ静岡

石井 裕二

ジェイテクト STINGS 愛知

横井 俊広

ウルフドッグス名古屋

久保田 剛

大阪ブルテオン

堀内 康男

KUROBE アクアフェアリーズ

蓮池 学

PFU ブルーキャッツ石川かほく

北河 英典

クインシーズ刈谷

森田 壮一

サントリーサンパーズ大阪

有本 亮介

日本製鉄堺プレイゼース

平野 信孝

広島サンダーズ

2024年度より、一般社団法人SVリーグは新リーグ「SV.LEAGUE」を始動いたしました。これに伴い、事業計画および予算は2023年度の実績から大きく変化しました。以下にその概要を報告します。



「世界最高峰のリーグ」を目指す上では、持続可能な経営体制の構築や信頼される運営が不可欠であり、結果的にはそれが競技レベルを高めることにも繋がります。

公益社団法人SVリーグは事業力とガバナンス力の強化を重要な柱と位置づけ、「より強固な基盤」「より広い規模への展開」の実現を見据えたクラブライセンス交付規則を制定しています。この規則はリーグの未来を見据え、すべてのクラブとともに成長していくための基盤でもあります。

2024年度 事業計画および予算概要

事業規模

2024年度の予算は、経常収益3,342百万円、経常費用3,173百万円を計画し、2023年度実績（収入944百万円、支出906百万円）と比較して経常収益は約3.5倍となりました。

	2023年度（予算）	2024年度（予算）
収入合計	944 百万円	3,342 百万円
支出合計	906 百万円	3,173 百万円
収支差額	37 百万円	169 百万円

経常収益構成の変化

経常収益の構成比は大きく変化しました。2023年度は会費（215百万円）、開催譲渡金（204百万円）、事業収益（434百万円）が主な収入源でした。2024年度は、スポンサーシップや放映権料を含む「事業収益」が2,595百万円となり、総収入の約78%を占める計画となりました。

主な支出項目

支出の増加は、主に事業費および販売費・一般管理費の増加によるものです。

事業費（2,820百万円）：大会運営、コンテンツ制作・配信、マーケティング関連費用に充当します。

販売費及び一般管理費（353百万円）：事業拡大に伴う組織体制の強化を目的としています。

総括

2024年度は新リーグへの移行に伴い、事業の規模・構造の両面で大きく変化しました。今後も事業収益を基盤とし、リーグの価値向上に資する分野へ資金を配分することで、持続的な運営を目指します。

SV.LEAGUEの主なライセンス基準

1 クラブの法人格

バレーボールを主たる事業とする取締役会設置株式会社であること（2026-27シーズンより必須）

2 クラブの経営責任者

原則常勤の代表取締役であること（2026-27シーズンより必須）

3 プロ契約選手数

所属する選手のうち過半数以上がプロ選手であること（2026-27シーズンより必須）

4 ホームアリーナ

ホームゲーム数の80%以上を開催
入場可能数5,000席以上
（2029-30シーズンまでは3,000席以上）

5 利益・純資産

3期連続赤字の禁止
債務超過の禁止

6 売上高

6億円以上
（2026-27シーズンまでは4億円以上）

7 外部監査

外部監査法人または公認会計士による
外部監査を必須とする

8 ユースチームの保有

U15、U18カテゴリーのユースチームの保有
（U18は2027-28シーズンより必須）

9 スクールなどの活動

スクールの運営、学校等への選手またはコーチ派遣、
バレーボール教室や生涯スポーツプログラムの提供、
バレーボール活動資金援助等の活動実施

10 指導者・専任人材

JSPOコーチ4以上を保有するヘッドコーチ・アシスタントコーチ
JSPOコーチ2以上を保有する育成責任担当・ユースチームヘッドコーチ
資格を保有する医師、トレーナー

※2025年7月16日改正

差別・誹謗中傷等への対応

SV.LEAGUEでは多様性、公平性を尊重し、あらゆる差別や誹謗中傷を禁じています。
2025年3月2日に公開されたチェアマンからのコメントを一部抜粋して掲載します。

SV.LEAGUEでは多様性、公平性を尊重し、あらゆる差別や誹謗中傷を禁じています。

SV.LEAGUEには様々な国や人種の選手、スタッフが在籍しており、その全ての方の多様性、公平性、包摂性は当然に尊重されるべきです。これは世界最高峰を掲げる我々SV.LEAGUEのみならず、グローバルでスポーツ界全体が示している姿勢です。差別的・侮辱的発言はスポーツ選手として相手へのリスペクトに著しく欠け、人権や名誉を傷つける行為であり、いかなる理由があっても正当化されるものではありませんし、このような行為は選手やSV.LEAGUE関係者を傷つけるだけでなく、リーグ・クラブの価値を貶める由々しき事態であり、断固として容認できるものではありません。

SV.LEAGUEは今後、クラブ、スタッフ、選手をはじめSV.LEAGUEに関係する全ての人々に対する啓発活動を実施し、二度とかかる事態が発生しないよう努めます。

SV.LEAGUEはいかなる差別・誹謗中傷も容認せず、SV.LEAGUEに関わる全ての方への差別・誹謗中傷をなくし、人権を守ります。今後もSV.LEAGUEの関係者において差別的・侮辱的発言が認められた場合には厳正に対処してまいります。

公益社団法人SVリーグ
代表理事（チェアマン） 大河正明



MISSION 「強く、広く、社会とつなぐ」

SV.LEAGUEでは初年度を迎えるにあたり、2030年までのミッション達成のために11のゴールを設定。取り組むべき項目と、達成すべき目標を明確化しています。

“強く”のために

1 リーグガバナンスの再構築

- 透明性・公平性・規律性の担保、組織体の健全化
- 人材育成・インテグリティ
- クラブライセンス制度の質向上

3 新規ビジネスへのチャレンジ

- コンテンツホルダーの外側にあるビジネスへの投資
- 他産業とのアライアンス

2 事業規模の非連続な成長

- リーグ収益目標:80億円、クラブ収益目標:420億円
- マーケティング戦略の高度化
- チケットシステム、ファンデータベースの再構築

4 世界最高品質のゲーム提供

- 試合開催期間の確保
- リーグ戦、プレーオフの充実
- 選手の躍動
- ファンファーストの空間創出

“広く”のために

5 入場者数の飛躍的な拡大

- ホーム&アウェイの定着
- 総入場者数目標:250万人以上(2030-31シーズン)

7 次世代の育成

- U15(ジュニアチーム)保有の義務化
- U18保有の検討
- リーグユース世代の大会活性化

6 新規ファン層の掘り起こし

- SNS戦略の強化・推進
- 代表・選手を活用したプロモーションの徹底

8 海外戦略の推進

- 海外・アジアマーケット(タイ・フィリピン等)の開拓
- 海外での事業展開
- 海外での公式戦実施検討
- 欧州有力リーグとの提携

“社会とつなぐ”のために

9 ホームタウン活動の活性化

- 教育機関との連携、介護予防・健康増進、まちづくりなどをテーマに活動強化
- 選手・クラブとホームタウンの関係強化

11 国際競争力の向上

- 国際的人材の発掘・育成
- 国際的発言力の獲得・強化

10 社会連携へのチャレンジ

- 自治体・企業・住民を巻き込んだ社会課題の解決
- SV.LEAGUE・クラブの存在感UP

VISION 世界最高峰のリーグ ~GO FOR 2030~

SV.LEAGUEはさらなる成長とビジョン達成のため「3つの力」を高めていきます。

1

経営力

成長の最大のドライバー

ガバナンスを強化し、リーグ運営基盤の整備と新規事業立ち上げ、デジタルマーケティング分野への投資を進めることで、世界一の事業規模・経済圏を実現します。

2

影響力

社会とつながり巻き込む

リーグの事業活動や社会連携の活動を通じ、日本・世界を巻き込み、人々のこころや経済を動かす存在となります。

3

競技力

才能が集い、夢が育つ舞台に

制度整備、各国リーグ・協会との連携を強化し、国内外の最高峰の人材が集うリーグとなります。「プロバレーボール選手」を夢見る、国内外の人材が成長できるリーグを実現します。

VALUE GATHER

リーグとクラブの価値向上のために、「ヒト・モノ・カネ・情報」を集める存在となり、バレーボール界における「世界の中心」を日本に作ることを目指しています。

世界最高峰のリーグとは
世界で最も「ヒト・モノ・カネ・情報」を集める存在
||
GATHER



2024-25シーズンの成果

ミッション		2024-25進捗	成果	課題
強く	リーグガバナンスの再構築	○	規約・規定類や事務局体制整備	リーグ事務局のさらなる人員強化
			SVライセンスの制定、運用	選手会の整備
	世界最高品質のゲーム提供	○	リーグ戦試合数増加(44試合)	更なる試合増の検討
			興行のエンタメ化の進行	平日開催の検討
				選手登録数の上限設定
	事業規模の非連続な成長	◎	リーグ協賛、放映権料が大きく拡大	統一顧客のデータベースの構築、運用
			クラブ収益もKPIを大きく超過	
広く	入場者数の飛躍的な拡大	○	SV MENは平均3,000人超で着地	ホームアリーナの確保 SV WOMENの集客促進、盛り上げ
	新規ファン層の掘り起こし	△	アジアでの交流、活動の開始	SNSを活用したプロモーション
			Volleyball Worldでの世界配信決定	代表活動との連動
	次世代の育成	△	U15保有必須化	U18保有の検討継続 大会の魅力向上、育成方針
社会と つなぐ	ホームタウン活動の活性化	△	ホームタウンの設定	各クラブと自治体の連携をより強固に ホームタウン活動の充実
	社会連携へのチャレンジ	△	リーグパートナーと連携した 社会貢献活動の開始	地域におけるクラブの存在感アップ
	国際人材の輩出	△	韓国バレーボール連盟（KOVO）との 連携を締結	リーグ人材の育成

※進捗は◎：超過達成、○：達成、進捗良好、△途中段階、運行中
※上記ミッションは2023年のV.LEAGUE REBORN発表当時のもの

KPIの成果

KPI	2024-25設定値	2024-25実績見込み	進捗	2027-28設定値
SV.LEAGUE参加クラブ数(男女)	12クラブ以上	MEN／10 WOMEN／14	○	14クラブ以上
SV.LEAGUEレギュラーシーズン年間試合数(クラブあたり)	44試合以上	44試合	○	44試合以上
リーグ収益	20億円	34億円	◎	30億円
協賛額	12億円	15億円	○	20億円
V.LEAGUE fan club会員数	100万人	—(実施なし)	—	150万人
V.TV会員数	1.8万人	大きく超過(非公開) ^{※1}	◎	2.4万人
SVクラブ収益	110億円	213億円	◎	200億円
チケット販売額(リーグ+クラブ)	24億円	25億円	○	44億円
総入場者数	120万人	112万人	△	190万人

※進捗は◎：2027-28KPI達成、○：2024-25KPI達成、△：2024-25KPI未達成(80%超過達成)
※1 J SPORTS会員数を代用

2030年に向けて

SV.LEAGUEのプロ化

SV.LEAGUEのプロ化は、リーグ成長の最大のドライバーです。
併せてオンザコートルール拡大の早期実施により国際競争力を高めます。

	～2025-26	2026-27～
クラブのプロ化		
クラブ運営法人のあり方	株式会社であること (運営法人の独立化は求めない)	バレーボールを主たる事業とする株式会社 (運営法人の独立化)
リーグ実行委員の定義	代表取締役又は事業等の専決権限を持つ者	クラブ運営法人の代表権を持った取締役 (原則常勤とする)
クラブ決算公開	定めなし	クラブ運営法人の決算情報を公開
選手のプロ化		
プロ契約選手数の設定	定めなし	プロ契約選手数を1クラブあたり 所属選手の過半数以上
競技力の向上		
オンザコートルール	オンザコート2(外国籍2、アジア枠1)	オンザコート3(外国籍3、アジア枠1) ※既決定である2027-28～の外国籍枠拡大を1年前倒し

厚い中間層の構築

リーグ全体の競争力の源泉となる厚い中間層の構築を目的として、2026-27シーズンにSV下部リーグ「SV.LEAGUE GROWTH」を創設します。

新しい大会方式

2026-27シーズンから、男女それぞれ大会方式を一部変更します。

SV.LEAGUE WOMEN

～2025-26	1リーグ制	14クラブ	44試合
2026-27～	東西カンファレンス制	14クラブ 東地区7 西地区7	38試合 ✓コンディショニング的負担軽減(試合数減) ✓試合数減の上で、対戦が公平となる試合数に設定(自地区4試合総当たり+他地区2試合総当たり) ✓昇降格あり

SV.LEAGUE MEN

～2025-26	1リーグ制	10クラブ	44試合
2026-27～	1リーグ制	12クラブ	44試合
		✓現行から2クラブのエクspansion ✓最大16クラブまでのエクspansion実施	✓各クラブと4試合総当たり ✓昇降格なし



SV・プロ志向とアマ志向のクラブが混在し、方向性の違いが顕著
準備段階のクラブやアマ志向クラブに適した環境に移行

VOLLEYBALL

VOLLEYBALL

SV.LEAGUE初年度は、プロリーグとして競技および運営や育成のレベルを向上させるための基盤づくりを行ったシーズンでした。

リーグ戦、チャンピオンシップは男女ともに熱戦が繰り広げられ、WOMENは大阪マーヴェラス、MENはサントリーサンバーズ大阪が初代王者となりました。復興支援を目的に2025年1月に石川県がほく市で開催したMUFG SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25 ISHIKAWAは、石川県の皆様に様々な形で貢献できる機会となることを目指しました。

また若年層育成のため「SV-V.LEAGUE U15選手権大会」を初開催。将来の競技基盤強化に貢献しています。

一方で、課題も顕在化しました。試合数や対戦カードの不均等性については関係者から様々な意見をいただきました。また導入した「VolleyStation」運用についても、人材配置や習熟度に課題があり、安定運用には体制強化が必要です。競技運営におけるゲームマネジメントの向上も課題です。U15選手権大会の地域偏在も、全国的な普及と競技機会均等化に向けた解消が課題です。全国展開を目指し、地域連携を強化することで、バレーボールを通じた青少年育成と競技人材の裾野拡大に貢献してまいります。

SV.LEAGUEは、今後も着実に課題解決と発展を目指して進んでまいります。選手・チームとの対話を強化し、リーグ運営への意見反映と透明化を図り、選手ファーストの競技環境を整備できるように努める所存です。

2024-25 大同生命SV.LEAGUE WOMEN レギュラーシーズン

多くの新戦力が台頭し、リーグ全体のレベルアップを印象付けるレギュラーシーズンとなりました。緻密なデータ分析に基づいた戦術を導入するクラブも目立ちました。台頭する若手と、経験豊富なベテラン勢のプレーがファンを魅了。展開が予測できない好試合が相次ぎました。14チームの総当たりで行われたホーム&アウェイ戦では各地域の特色を活かしたイベントも開催され、バレーボールファンや家族連れが会場を賑わせました。

順位	チーム	試合数	勝	負	勝率	ポイント
1	大阪マーヴェラス	44	37	7	0.84	112
2	NECレッドロケッツ川崎	44	30	14	0.68	92
3	SAGA久光スプリングス	44	30	14	0.68	89
4	デンソーエアリービーズ	44	29	15	0.66	89
5	埼玉上尾メディックス	44	27	17	0.61	83
6	ヴィクトリーナ姫路	44	27	17	0.61	79
7	東レアローズ滋賀	44	26	18	0.59	74
8	Astemoリヴァーレ茨城	44	23	21	0.52	65
9	クインシース刈谷	44	20	24	0.45	62
10	PFUブルーキャッツ石川かほく	44	19	25	0.43	57
11	岡山シーガルズ	44	15	29	0.34	47
12	KUROBEアクアフェアリーズ	44	15	29	0.34	44
13	アランマーレ山形	44	5	39	0.11	16
14	群馬グリーンウイングス	44	5	39	0.11	15

チャンピオンシップ最終順位表

チャンピオンシップWOMENはレギュラーシーズンの上位8チームによるトーナメント戦で行われました。各クラブが白熱した試合を展開し、初代リーグ王者を賭けたファイナルには大阪マーヴェラスとNECレッドロケッツ川崎が進出。2戦連続ストレート勝ちという圧巻の内容で、大阪マーヴェラスが優勝を果たしました。この模様はNHK BSとフジテレビNEXTでの試合中継も行われました。

順位	チーム
1	大阪マーヴェラス
2	NECレッドロケッツ川崎
3	SAGA久光スプリングス
4	デンソーエアリービーズ
5	埼玉上尾メディックス
6	ヴィクトリーナ姫路
7	東レアローズ滋賀
8	Astemoリヴァーレ茨城



2024-25 大同生命SV.LEAGUE MEN レギュラーシーズン

2024-25シーズンは開幕前からの期待を受け、トップチーム間での激しい順位争いが繰り広げられました。ベテランの円熟したプレーや国際舞台で経験を積んだ選手のハイレベルなテクニックなどで、各チームの戦力はこれまで以上に拮抗。また新たな外国籍選手の加入も各チームの攻撃力を底上げしました。全10チームが総当たりするホーム&アウェイ方式の採用により、特に各クラブのホームゲームは熱量の高いファンの応援で大いに盛り上がりました。

順位	チーム	試合数	勝	負	勝率	ポイント
1	大阪ブルテオン	44	37	7	0.84	106
2	サントリーサンバース大阪	44	36	8	0.82	107
3	ウルブドッグス名古屋	44	35	9	0.80	104
4	ジェイテクトSTINGS愛知	44	26	18	0.59	71
5	東京グレートベアーズ	44	23	21	0.52	73
6	広島サンダース	44	18	26	0.41	55
7	日本製鉄堺ブレイザーズ	44	15	29	0.34	50
8	東レアローズ静岡	44	12	32	0.27	39
9	VC長野トライデンツ	44	10	34	0.23	27
10	ヴォレアス北海道	44	8	36	0.18	28

チャンピオンシップ最終順位表

チャンピオンシップMENはレギュラーシーズンを勝ち抜いた上位6チームによるトーナメント方式で行われました。リーグ初代王者の座をかけた戦いとして大会前から大きな注目を集め、セミファイナルはフジテレビNEXTで、ファイナルはNHK BS、BS-TBS、フジテレビNEXTでの放送も実現しました。日本や世界各国の強力な選手が揃う2チームが対戦したファイナルは、サントリーサンバース大阪がジェイテクトSTINGS愛知を2連勝で退け、初代王者に輝きました。

順位	チーム
1	サントリーサンバース大阪
2	ジェイテクトSTINGS愛知
3	大阪ブルテオン
4	ウルブドッグス名古屋
5	東京グレートベアーズ
6	広島サンダース

2025年1月25日(土)、26日(日)に、SV.LEAGUE初となるオールスター戦「MUFG SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25 ISHIKAWA」を開催しました。今大会は「能登とともに。」を大会スローガンに石川県かほく市のとり野菜みそBLUECATS ARENAが会場となりました。

25日に行われたWOMENの試合には2,484人、26日に行われたMENの試合には2,741人が来場。週末を通して試合以外にも多くの被災地支援イベントを行い、本大会の収益の一部と令和6年能登半島地震の復興支援としてリーグ・クラブが実施した募金を合わせた総額2,000万円を石川県に義援金として寄付しました。

SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2025-26は2026年1月31日(土)、2月1日(日)に兵庫県・神戸市のGLION ARENA KOBEで行います。



入場者数 WOMEN **2,484** 人 MEN **2,741** 人
投票数 WOMEN **71,772** 票 MEN **232,549** 票

ドラフト会議の導入

オールスターの出場選手選考ではドラフト会議システムを導入しました。まずはファン投票で男女各14選手、リーグ推薦で男女各14選手の計28選手が選出され、そこからファン投票で選ばれたキャプテンが各チームメンバーを指名するドラフト会議を実施。J SPORTSオンデマンドで配信されたドラフトの様子は大会前から大きな話題を創出しました。



MEMBER LIST

WOMEN	
TEAM NICHIKA 1	25 - 23 17 - 25 26 - 28
TEAM KOTONA 2	
C 山田 二千華 NECレッドロケッツ川崎 黒後 愛 埼玉上尾メディックス 佐藤 淑乃 NECレッドロケッツ川崎 野中 瑠衣 Astemoリヴァーレ茨城 中島 咲愛 SAGA久光スプリングス ロザマリア・モンチベレル デンソーエアリービーズ 白岩 蘭奈 群馬グリーンウイングス 裴輪 幸 大阪マーヴェラス 宮部 藍梨 ヴィクトリーナ姫路 平山 詩媛 SAGA久光スプリングス 安田 美南 KUOREアクアフェアリス 栄 絵里香 SAGA久光スプリングス 池谷 優佳 PFUブルーキャッツ石川かほく 松岡 芽生 東レアローズ滋賀 HC 齋藤 真由美 群馬グリーンウイングス	C 林 琴奈 大阪マーヴェラス チャットチュオン・モクシー ヴィクトリーナ姫路 金田 修佳 NECレッドロケッツ川崎 川添 美優 PFUブルーキャッツ石川かほく 和田 由紀子 NECレッドロケッツ川崎 長岡 望悠 SAGA久光スプリングス 荒木 彩花 SAGA久光スプリングス 小川 愛里奈 大阪マーヴェラス タットダ・マクジャン PFUブルーキャッツ石川かほく 瀬戸 杏華 デンソーエアリービーズ 岩崎 こよみ 埼玉上尾メディックス 高佐 風梨 ワインシーズ刈谷 西村 弥葉美 SAGA久光スプリングス 工藤 真帆 アランマーレ山形 HC 金子 隆行 NECレッドロケッツ川崎

MEN	
TEAM MASA 3	25 - 16 25 - 22 29 - 27
TEAM TOMO 0	
C 柳田 将洋 東京グレートベアーズ 高橋 藍 サントリーサンパーズ大阪 高橋 健太郎 ジェイテクトSTINGS愛知 西田 有志 大阪ブルテオン 小野寺 太志 サントリーサンパーズ大阪 山本 智大 大阪ブルテオン トリー・デファルコ ジェイテクトSTINGS愛知 永露 元稀 大阪ブルテオン 西本 圭吾 東レアローズ静岡 池田 幸太 ヴォレアス北海道 ニミル・アブデルアジズ ウルフドッグス名古屋 蔡 沛彰 日本製鉄堺ブレイザーズ 大宅 真樹 サントリーサンパーズ大阪 備 一真 VC長野ライデンツ HC ヴァレリオ・バルドヴィン ウルフドッグス名古屋	C 小川 智大 ジェイテクトSTINGS愛知 水町 泰杜 ウルフドッグス名古屋 関田 誠大 ジェイテクトSTINGS愛知 山内 晶大 大阪ブルテオン 三輪 大将 広島サンダーズ 後藤 陸翔 東京グレートベアーズ 森 愛樹 日本製鉄堺ブレイザーズ 宮浦 健人 ジェイテクトSTINGS愛知 波佐間 泰平 VC長野ライデンツ 高梨 健太 ウルフドッグス名古屋 新井 雄大 広島サンダーズ 張 育隆 ヴォレアス北海道 傳田 亮太 ウルフドッグス名古屋 新 貴裕 東レアローズ静岡 HC ロラン・ティリ 大阪ブルテオン

MUFG賞(MVP)

川添 美優

NEO AWARD賞(MIP)

松岡 芽生

MUFG賞(MVP)

トリー・デファルコ

NEO AWARD賞(MIP)

水町 泰杜

Charity

被災地支援



募金活動

試合開始前にはサブアリーナのステージで、全出場選手による募金活動を実施。両日で計1,000,345円の支援をいただきました。また「Engage」を活用したオンライン募金活動も行い、97,500円が集まりました。いただいた義援金は全額を石川県内の被災地に寄付してあります。

オールスターチャリティーオークション

タイトルパートナーのMUFG様の支援のもと、チャリティーオークションを開催。オールスターゲーム出場選手の直筆サイン入りの特別ユニフォームや公式球などを出品し、249名が参加。落札総額は13,850,024円になりました。売上金は手数料を除き、石川県内の全小中学校年代のバレーボール部・クラブへの記念ボールの贈呈に使用しました。

OTHERS

オールスターゲームの第1・2セットで、選手たちはこの日限りのスペシャルユニフォームを着用。2024-25大同生命SV.LEAGUEの開幕にあたり、集英社『ハイキュー!!』(作者・古館春一)とのコラボレーションによるキービジュアルで、日向翔陽と影山飛雄が着用していたものをベースにデザインされたユニフォームは話題を呼びました。また、このユニフォームは公式オンラインサイトで受注販売も実施。原作ファンなど多くの方にご購入いただき、ファン層の拡大につながっています。

NEO AWARD HOKURIKU

～つなげ未来へのトス～

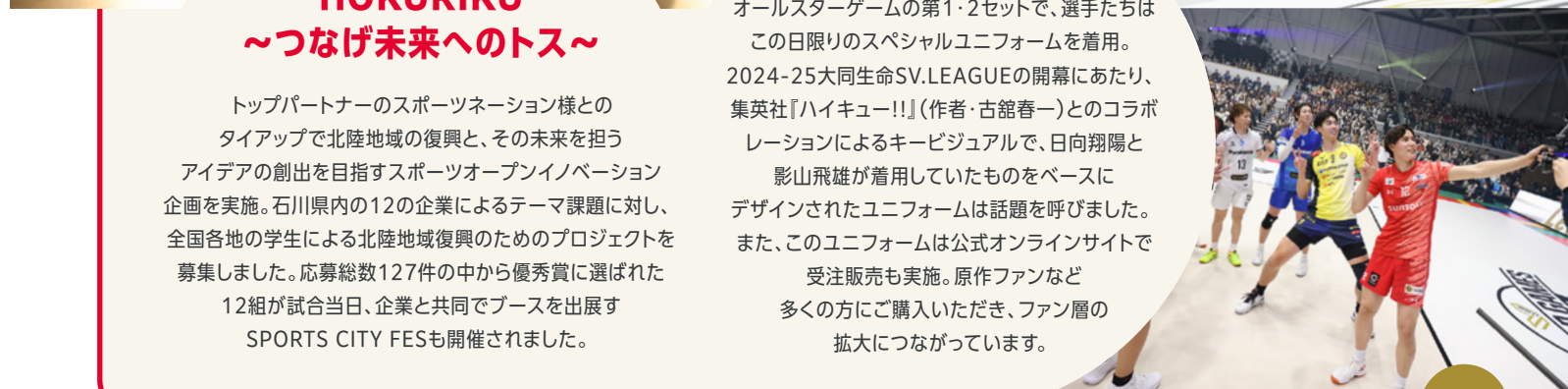
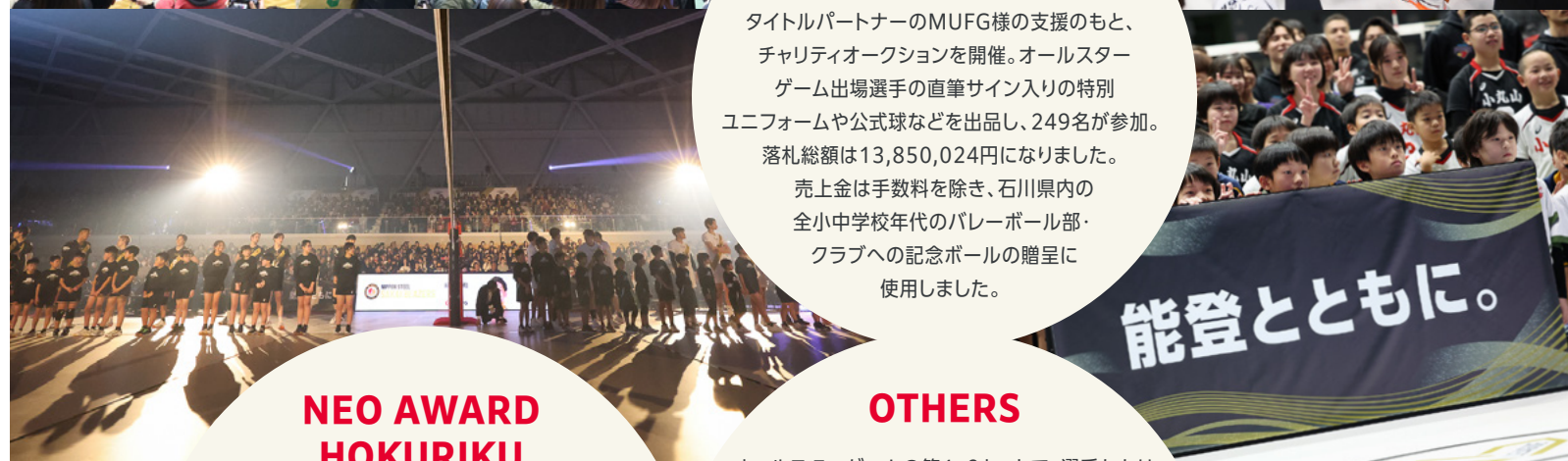
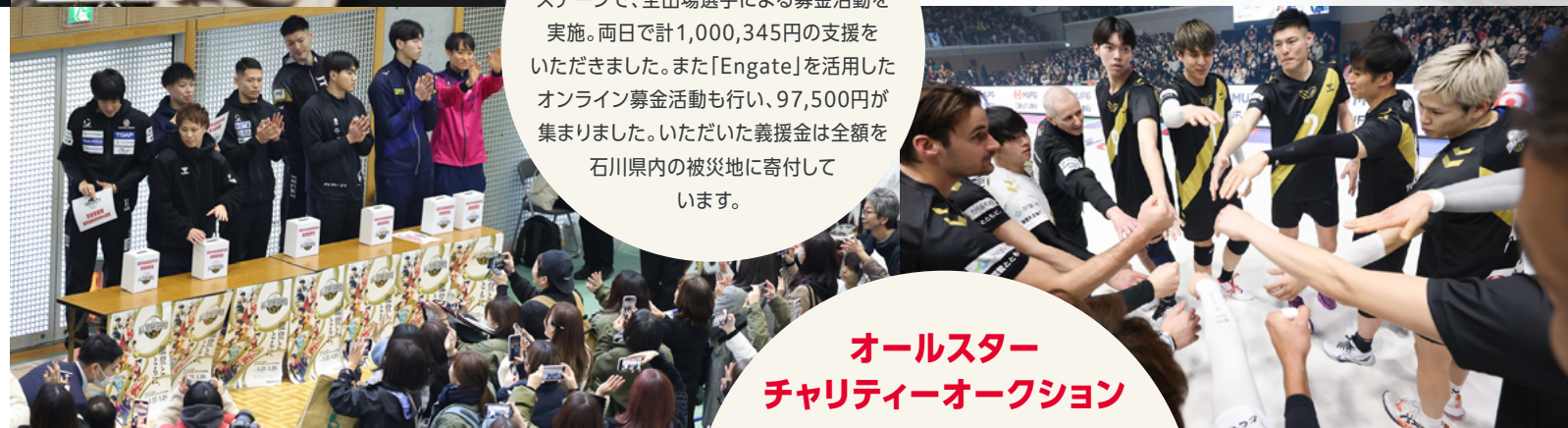
トップパートナーのスポーツネーション様とのタイアップで北陸地域の復興と、その未来を担うアイデアの創出を目指すスポーツオープンイノベーション企画を実施。石川県内の12の企業によるテーマ課題に対し、全国各地の学生による北陸地域復興のためのプロジェクトを募集しました。応募総数127件の中から優秀賞に選ばれた12組が試合当日、企業と共同でブースを出展すSPORTS CITY FESも開催されました。

VOLLEYBALL

試合への無料招待

開催地である石川県かほく市から、計150組300名の小中学生を試合観戦に招待しました。

試合当日の午前中には、地元の子どもたちを対象にしたバレーボール教室を開催。オールスターゲーム出場選手たちがコーチを務め、両日で計89名の子どもたちが参加しました。勝負のかかった試合とは異なる形で、開催地にバレーボールのレガシーを残しました。



2025年5月8日、2024-25シーズンの活躍や功績を讃える、SV.LEAGUE初となるAWARDSを開催しました。ドレスアップをした表彰者が会場に集い、初年度を象徴する華やかなセレモニーとなりました。



クラブ表彰

表彰項目	受賞クラブ	受賞クラブ
チャンピオンシップ優勝	大阪マーヴェラス	サントリーサンバーズ大阪
レギュラーシーズン優勝	大阪マーヴェラス	大阪ブルテオン
最優秀育成クラブ賞	SAGA久光スプリングス	大阪ブルテオン
最優秀社会連携クラブ賞	岡山シーガルズ	ウルフドッグス名古屋

リーダーズ表彰

表彰項目	受賞選手	受賞選手
トップスコアラー	シルビア・チネロ・ヌワカロール 東レアローズ滋賀	ニミル・アブデルアジズ ウルフドッグス名古屋
トップスパイカー	ブリオンヌ・バトラー Astemoリヴァーレ茨城	ニミル・アブデルアジズ ウルフドッグス名古屋
トップサーバー	ジュリエット・ロホイス 東レアローズ滋賀	ニミル・アブデルアジズ ウルフドッグス名古屋
トップブロッカー	ブリオンヌ・バトラー Astemoリヴァーレ茨城	西本 圭吾 東レアローズ静岡
トップサーブレシーバー	川畑 遥奈 デンソーエアリービーズ	森 愛樹 日本製鉄堺プレイゼーズ



個人表彰

表彰項目	受賞選手・ヘッドコーチ	受賞選手・ヘッドコーチ
レギュラーシーズンMVP	林 琴奈 大阪マーヴェラス	ニミル・アブデルアジズ ウルフドッグス名古屋
レギュラーシーズン ベストリベロ	川畑 遥奈 デンソーエアリービーズ	山本 智大 大阪ブルテオン
レギュラーシーズン ベストレシーブ	林 琴奈 大阪マーヴェラス	高橋 藍 サントリーサンバーズ大阪
最優秀新人賞	佐藤 淑乃 NECレッドロケッツ川崎	水町 泰杜 ウルフドッグス名古屋
MIP賞	ロザマリア・モンチベレル デンソーエアリービーズ	ニミル・アブデルアジズ ウルフドッグス名古屋
レギュラーシーズン優勝ヘッドコーチ賞	酒井 大祐 大阪マーヴェラス	ロラン・ティリ 大阪ブルテオン
チャンピオンシップMVP	田中 瑞稀 大阪マーヴェラス	高橋 藍 サントリーサンバーズ大阪
最優秀フェアプレー賞	島村 春世 NECレッドロケッツ川崎	デアルマス・アライン サントリーサンバーズ大阪



レギュラーシーズン ベスト6

WOMEN

 オポジットヒッター シルビア・チネロ・ヌワカロール 東レアローズ滋賀	 アウトサイドヒッター 佐藤 淑乃 NECレッドロケッツ川崎	 アウトサイドヒッター ロザマリア・モンチベレル デンソーエアリービーズ	 ミドルブロッカー ブリオンヌ・バトラー Astemoリヴァーレ茨城	 ミドルブロッカー 島村 春世 NECレッドロケッツ川崎	 セッター 岩崎 こよみ 埼玉上尾メディックス
--	---	---	---	---------------------------------------	----------------------------------

MEN

 オポジットヒッター ニミル・アブデルアジズ ウルフドッグス名古屋	 アウトサイドヒッター ミゲル・ロペス 大阪ブルテオン	 アウトサイドヒッター 高橋 藍 サントリーサンバーズ大阪	 ミドルブロッカー エバデガン・ラリー 大阪ブルテオン	 ミドルブロッカー 西本 圭吾 東レアローズ静岡	 セッター 深津 英臣 ウルフドッグス名古屋
--	--------------------------------------	--	--------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------

特別表彰

表彰項目	受賞名	表彰項目	受賞名
ARENA OF THE YEAR	大阪ブルテオン	BREAKTHROUGH OF THE YEAR	日本製鉄堺プレイゼーズ
ATTACK THE TOP賞	西田 有志 大阪ブルテオン	高橋 藍	サントリーサンバーズ大阪

功労者表彰

表彰項目	受賞名		受賞名	
選手	銅谷 友理枝 クインシーズ刈谷	山岸 あかね 埼玉上尾メディックス	近 裕崇 ウルフドッグス名古屋	米山 裕太 東レアローズ静岡
関係者	早野 容司 ジェイテクトSTINGS愛知			



U15 選手権

若い選手たちが目指すべき大会を作ることは、次世代の育成にも繋がります。過去9回開催されてきた「Vリーグジュニア選手権大会」は、世界最高峰を目指すSV.LEAGUEと地域密着のV.LEAGUEへの再編により「SV-V.LEAGUE U15選手権大会」と名称を変更し、初のU15選手権として開催されました。当初は8月に予選大会、10月に本戦を予定していましたが、台風10号の接近により、関係者の安全などを考慮して延期。2024年10月5日（土）・6日（日）の2日間で全日程を行いました。

相模原グリーンアリーナで行われた女子大会には24チームが参加し、アイシンティルマーレ碧南のジュニアチームであるティルマーレジュニアが優勝。また埼玉上尾メディックスJr.はオリンピックの松田明彦氏、NECレッドロケッツ川崎U15は元日本代表の竹内実氏が監督を務めるなど、世代間の連携も見られ、競技のさらなる普及への可能性を感じる大会となりました。

近畿大学記念会館で行われた男子大会には22チームが参加し、ウルフドッグス名古屋U-14が優勝。前身の大会と合わせると5大会連続の優勝を果たしました。

女子大会は出場選手数503人、累計観戦者数780人、男子大会は出場選手数525人、累計観戦者数870人となりました。

若い選手たちの健やかな育成を目指し、両日には保護者を対象に、計4回の食育講座も開催しました。「試合前後の補食の摂り方の参考になりました」「普段の生活でためになる食事のコツなど、大変分かりやすい資料でした」という声がある一方、試合時間と講座が重ならないスケジュールの工夫や、事前PR強化でさらに多くの方々の参加を募るなど、次回以降もさらなる改善を行っています。



保護者の声

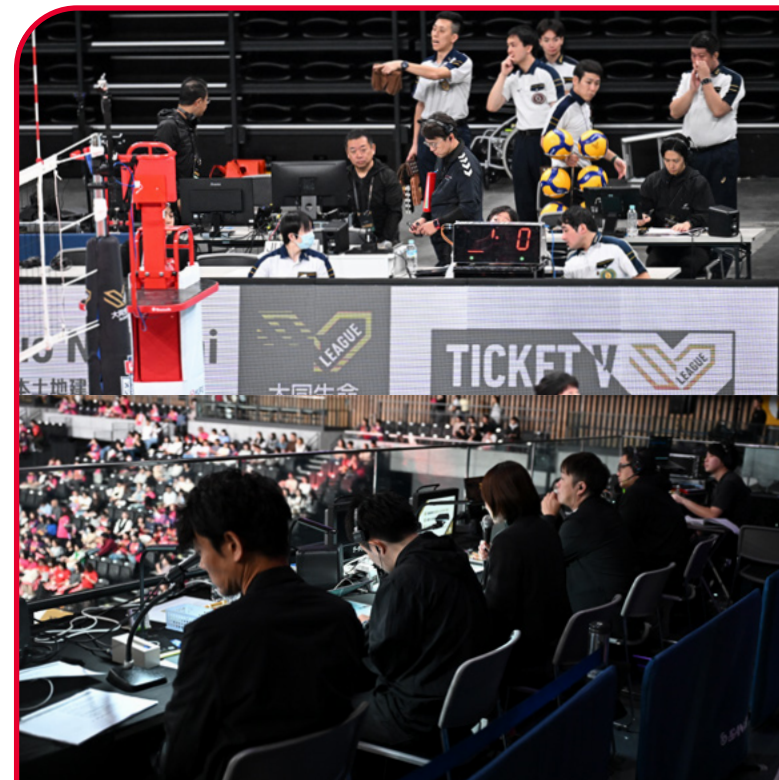
子供達の大舞台でのキラキラした笑顔が見られてとてもよかったです。

レベルが高く、チームづくりについても勉強させていただきました。

選手から「こんなにバレーボールが楽しいと知れたのは初めての大会だった」と言われました。

決勝トーナメントは3セットマッチで見たかった。

U15選手権を目標としているチームもあるので、ありがたいです。ジュニア育成の観点からも各チームとの交流があるとうれしいです。



VolleyStationの導入

世界最高峰のリーグを目指すという理念は、大会運営にも反映されています。そのひとつが国際大会でも採用されている「VolleyStation」のSV.LEAGUEへの導入です。

バレーボール専用の試合分析・スカウティングを行うこのソフトウェアは、映像とデータの統合性が高く、戦力分析に強い特徴があります。導入により、タブレットによるチームとレフェリーの連携や、チーム・個人の技術評価などを容易に行うことができるようになりました。また、少人数での運営が可能で、試合開催地の負担軽減や、スキル評価のばらつきの回避、多種多様な情報連携、電子化による帳票類のクラウド保管、卓上得点板・ライブスコア・会場内の得点表示を統一できるなど、さまざまなメリットを受けられます。

SV.LEAGUEではシステムの導入に際して、レフェリーやスコアラーなどへの講習、プレシーズンマッチでのテスト運用などを経て、システムの普及にも尽力しています。

FAN



SV.LEAGUE初年度は、集客面で大きな成果を上げることができました。2024-25シーズンのSV.LEAGUEの総入場者数は1,122,710人。新たに導入したチケットサービス「チケットV」の会員数は28万人を超えました。リーグのSNSもファンの方々に楽しんでいただき、YouTubeのチャンネル登録者数は13万人、新設したInstagramのフォロワー数は9万人を超えました。

MEN開幕戦のフジテレビ系列での生中継をはじめ、中継実績も増えました。「J SPORTSオンデマンド」では全試合を独占配信。多くの人々にSV.LEAGUEを通じてバレーボールに触れていただくきっかけを創出しました。

一方で、MENとWOMENの平均入場者数には差があり（MEN:3,125人、WOMEN:1,237人）、さらに多くのファンの皆様に会場に足を運んでいただくためにも、メディアやSNSを通じてSV.LEAGUEにより興味・関心を持っていただくための改善が必要です。

今年度の取り組みとしては、「SV.LEAGUE観戦者の実像」の把握を目的として、13,000人以上の観戦者にアンケートを実施。これまで明確に捉えきれていなかったファン属性や観戦理由などを可視化することができました。

来年度からは統一化された顧客基盤を導入し、データを活用したさらなるマーケティング活動の進化を見込んでいます。今後は改善施策の実施およびコンテンツを提供することで、ファンの皆様の満足度を高め、より多くの方々にSV.LEAGUEへの興味・関心を広めることができるように尽力してまいります。

AUDIENCE

総入場者数

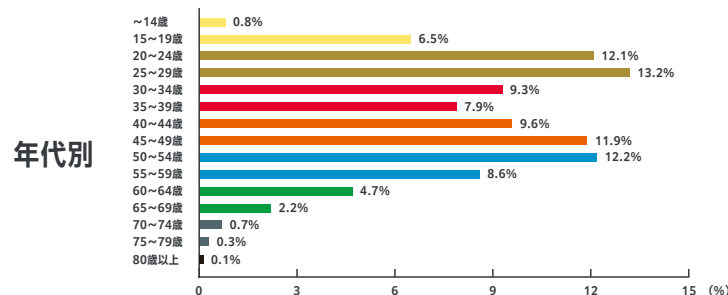
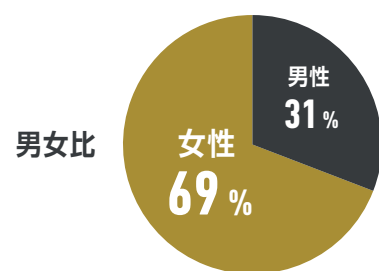
(レギュラーシーズン+チャンピオンシップ)

1,122,710 名 前シーズン比 +586,447名 209%

WOMEN

MEN

総入場者数	400,940名	+266,947名	299%
平均入場者数	1,237名	-526名	70%
総入場者数	721,770名	+319,500名	179%
平均入場者数	3,125名	+939名	143%



※前シーズン比は2023-24 V.LEAGUE DIVISION1の実績との比較 ※前シーズンの平均入場者数は総入場者数を興行回数で除したもの

チケットVの導入

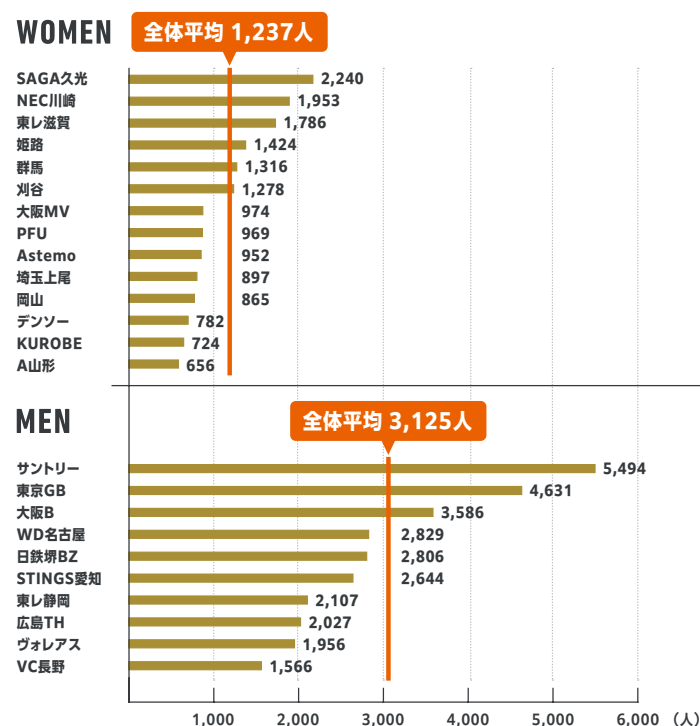
2024年、SV.LEAGUEはチケットサービス「チケットV」をローンチしました。

これまで各クラブが異なるチケットサービスを採用していましたが、リーグで統一することで、チケット購入者は会員登録が一度で完結し、全試合の空席情報がサイト内で確認できるようになりました。また、各クラブで保有していたマーケティングデータをリーグが集約して各クラブに配布。このデータを元に各クラブが様々な施策に活用できるようになっています。

昨年までのVリーグチケットの累計登録者数166,933名を大幅に更新し、現在登録者数は28万人を突破しています。



レギュラーシーズン クラブ別平均入場者数



SNS

SV.LEAGUEの立ち上げに伴い、XとInstagramの公式アカウントを新たに開設しました。

また、YouTubeとTikTokについては従来のアカウントを引き継ぎ、さらなるファンベースの拡大を図っています。タイムリーな試合結果やニュースの発信のみならず、各クラブや選手とも連携したさまざまな企画やキャンペーンを展開することでフォロワー数を伸長させました。

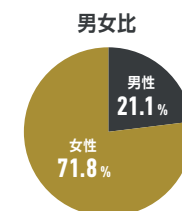


X

57,065

フォロワー

今シーズンより新設



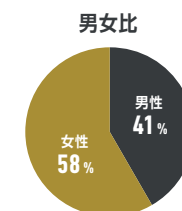
TikTok

22,000

フォロワー



昨シーズン比 +302.5%

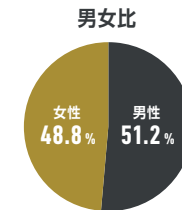


Instagram

93,000

フォロワー

今シーズンより新設



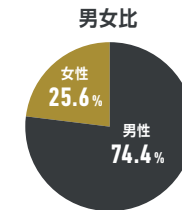
YouTube

133,938

チャンネル登録



昨シーズン比 +43.5%



※2025年7月31日時点

2024-25シーズン SNS施策



開幕戦応援メッセージシリーズ

開幕戦に先駆け、各クラブの選手やOB、OG、著名人の方々によるお祝いメッセージの動画をアップしました。



バレンタイン&ホワイトデー企画 きゅん1グランプリ

ファン参加型のバレンタイン&ホワイトデー企画として、XやInstagram、Vコレを活用し、ファンが“きゅん”とする選手に投票。ファンのみならずクラブや選手も巻き込んで大いに盛り上がり、多くのエンゲージメントを獲得しました。

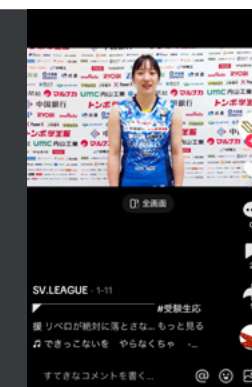


月間SNSアワード

リクルートスタッフィングとの協賛により開催。毎月発表されるテーマに沿って、各クラブから選手1名がエントリー。候補者の中からファンが投票し、月間SNSアワードを受賞した選手には表彰物を贈呈。受賞選手からの感謝のメッセージも配信しています。

受験生応援シリーズ

各種SNSで受験生応援企画を展開。「絶対落とさない」をコンセプトに各クラブのリベロの選手による応援動画を配信。併せて出演選手のサイン入りカードが当たるプレゼントキャンペーンも開催しました。



J SPORTS オンデマンドでの全試合配信

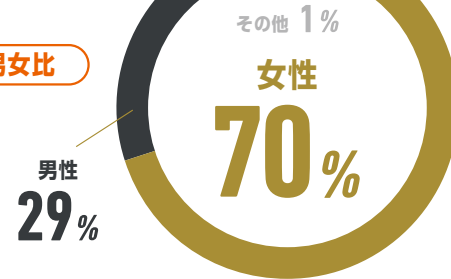
SV.LEAGUEは2024年6月に株式会社ジェイ・スポーツ(J SPORTS)とオフィシャルブロードキャストパートナー契約を締結。2024-25シーズンのSV.LEAGUEの男女全試合が、J SPORTS オンデマンドに加え、J SPORTSが展開する「Amazon Prime Video J SPORTSチャンネル」や「ABEMA de J SPORTS」でも生配信されました。SV.LEAGUEの試合は、これまでスポーツ番組視聴者の主要層であった30~40歳代の男性だけでなく、20~30歳代の女性にも幅広く視聴されています。

2024-25シーズンは各クラブの選手やマスコットを「J SPORTS バレーボールアンバサダー」に任命。ソーシャルメディアを通じて、バレーボールや新リーグの魅力を発信していきました。また、各クラブのホームページ経由で「J SPORTSバレーボールパック」に加入いただくと、視聴料金の一部が強化費用として当該クラブに還元される仕組みも導入しました。

2025-26シーズンのSV.LEAGUEも、J SPORTS オンデマンドにて全試合生配信することが決まっています。またSV.LEAGUE各クラブの公式ファンクラブと連携したシーズンパスを販売し、その視聴料の一部も強化費用としてクラブに還元されます。

加えて2025年7月からは「U-NEXT」でも「J SPORTS バレーボールパック」の提供が開始されました。2025-26シーズンも引き続きSV.LEAGUEとJ SPORTSとの取り組みにご期待ください。

視聴者男女比



バレーボールパック年代別視聴者

年代別視聴者最多は20代女性

WOMEN

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
その他	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%
女性	6.8%	18.2%	9.3%	7.3%	9.1%	4.3%	1.2%
男性	3.2%	10.1%	5.8%	6.8%	9.5%	5.4%	1.9%

MEN

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
その他	0.1%	0.4%	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%
女性	8.4%	27.8%	13.1%	8.9%	9.1%	4.0%	0.9%
男性	3.7%	10.0%	3.7%	3.1%	3.6%	1.9%	0.6%

ゲーム視聴数

WOMENのシーズン全体の視聴者数トップ3は、オールスターゲームが1位、チャンピオンシップファイナル第1戦が2位、第2戦が3位を獲得しています。MENはチャンピオンシップセミファイナル サントリーサンパズ大阪vsウルフドックス名古屋第3戦が1位、ファイナル第1戦が2位、オールスターゲーム3位という結果になりました。



開幕記者会見

SV.LEAGUE開幕に先立ち、開幕記者会見が行われました。会見ではリーグの詳細が発表されたほか、各チームの代表選手25名が登壇。リーグとクラブ、選手が協力し、リーグの発展に貢献することを象徴する、華やかな記者会見となりました。



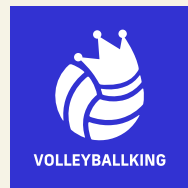
新聞

開幕戦と「大同生命 SV.LEAGUE CHAMPIONSHIP Finals」の試合会場では、男女ともに特集を組んだスポーツ報知のPR号外を配布しました。



雑誌

SPORTS Graphic Number 1106号では、リーグ開幕に合わせ、バレーボール特集が組まれ、SV.LEAGUE 2024-25全選手名鑑の別冊付録も付きました。



WEB

SV.LEAGUEの開幕に合わせ、バレーボール専門メディア「バレーボールキング」が開設されました。ニュース記事から独自取材まで、幅広いコンテンツでバレーボール界の発展に貢献いただきました。



開幕戦の開催

2024年10月11日(MEN)・12日(WOMEN)に開催された記念すべきSV.LEAGUE開幕戦。MENはバレーボールの聖地とも言われる東京体育館(東京)、WOMENは川崎市とどろきアリーナ(神奈川)で行われました。日本を代表する選手たちの熱戦は、フジテレビ系でMENは地上波、WOMENはBSで放送され、注目を集めました。

チャンピオンシップの開催

WOMENはリーグ戦上位8クラブ、MENは上位6クラブによるトーナメント方式の「2024-25 大同生命SV.LEAGUE CHAMPIONSHIP」を開催し、全試合をJ SPORTSオンデマンドで生配信しました。FinalsはWOMENの全試合とMENの初戦を「有明アリーナ」で、MENの第2試合は「Lala arena Tokyo-BAY」で行い、NHK BS、BS TBS、フジテレビNEXT、BS10、ABEMAリアチャンネルなどで広く放送されました。「日向坂バレー部」によるイベントやアーティストによるライブなど、様々なパフォーマンスでも会場を盛り上げました。



デジタルカード「Vコレ」

SV.LEAGUEの選手の試合の様子をデジタルカードにした「Vコレ」は、カードを収集するだけでなく、ミッションをクリアしてランキングを競い合うゲーム性も装備。また試合に来場したファンには来場特典を付与することで、各会場での集客にも貢献しています。



リーグの取り組み

ハイキュー!! とのコラボレーション

SV.LEAGUEの開幕を記念し、人気バレーボール漫画「ハイキュー!!」の作者・古舘春一先生描き下ろしのキャラクターを活用したキービジュアルを制作しました。また、MUFG SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25 ISHIKAWAでは、同アニメをモチーフとしたユニフォームを選手が着用し、コラボグッズも販売しました。



©Haruichi Furudate/SHUEISHA

スポーツ大国アメリカへの視察

世界最高峰のリーグを目指す上での学びの機会として、スポーツビジネスやエンターテインメントの本場であるアメリカへの視察を行いました。2025年に開幕した女子バレーボールの新リーグ「LOVB」関係者との交流や、アリーナの先進事例や会場演出の見学、ファンエンゲージメントの向上施策などを学ぶため、リーグやクラブ関係者が参加しました。



PARTNERSHIP

PARTNERSHIP

SV.LEAGUE初年度は、パートナー企業の皆様がリーグの立ち上げを支えてくださいました。大同生命保険株式会社様は「2024-25 大同生命SV.LEAGUE」としてタイトルパートナーにご就任いただき、リーグの顔として定着。今後は各地で地域のステークホルダーを巻き込みながら、リーグ・SVクラブと大同生命支社の地域連携活動を推進していきます。

株式会社リクルートスタッフィング様には、「SV.LEAGUE AWARDS」「SV.LEAGUE 月間SNS AWARDS」を通じてSV.LEAGUEを盛り上げていただいただけでなく、「明日夢(みらい)プロジェクト」において次世代の選手育成活動のサポートをいただいています。

株式会社三菱UFJ銀行様には、レギュラーシーズンのみならず、石川県かほく市で開催した「MUFG SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25 ISHIKAWA」のタイトルパートナーとして復興支援活動のサポートをいただきました。また、新人選手への金融教育研修を実施いただきました。

一方で、リーグ全体としてのパートナー企業の皆様とのパートナーシップはまだまだ発展途上です。特に、各クラブの社会連携活動には均質化と最大化の余地があります。スポーツやバレーボールを通じ、多様な社会課題の改善・社会連携活動に取り組めるよう、努力してまいります。

SV.LEAGUEは、初年度の成功と課題を踏まえ、パートナーシップをさらに深化させ、リーグ全体の成長を加速させるための新たな挑戦を続けます。「世界最高峰のリーグ」というビジョン実現のため、パートナー企業の皆様との「共創」を新たな次元へと引き上げ、社会全体にポジティブなインパクトを波及させていきます。

価値共創のパートナーシップ

～SV.LEAGUE初年度の挑戦と、その先に見据えるもの～



全国の支店とクラブとの 共創で“つながる”リーグへ

菅原 SV.LEAGUEの初年度に大同生命保険様にはタイトルパートナーの決断をいただき、多方面でご協力をいただくばかりの1年でした。

中田 タイトルパートナーは弊社としても初の試みです。弊社は元々、パラスポーツの大会協賛は行っていました。障がいのある方が日常生活での様々な困難を乗り越え、スポーツにも挑戦する姿に、弊社の従業員が感動し、元気をいただく機会がたくさんありました。今回、SV.LEAGUEさんから大変ありがたいオファーをいただき、スポーツの持つ「人を元気にする力」でお客さまや地域を元気にしたいという想いに加え、「世界最高峰を目指す」

というビジョンに共感し、お手伝いできればと、タイトルパートナー締結に至りました。

菅原 SV.LEAGUEはまだ全都道府県にはクラブがないのですが、社会とのつながりをより広げていくためには、地域との連携が非常に大切だと考えています。御社は全国各地に支社や営業所をお持ちですから、ぜひ一緒に考えていただきたいと思います。また「想う心とつながる力で中小企業とともに未来を創る」という御社のミッションが、SV.LEAGUEが掲げるミッション「強く、広く、社会とつなぐ」と非常に親和性があると感じています。想いを共にしていただけるパートナー様と一緒できたことは本当にありがたいことだと、チェアマンの大河もよく話しています。

中田 ただ、当社では初めての試みなので、初年度はまず社内気運の醸成に力を入れました。社員が「本社からの指示だから」という受け身の意識で案内するのではなく、「この間試合に行っただけですけど、すごい楽しかったんです！」と伝えられた方が、お客さまにも「行ってみようかな」と思ってもらえますよね。全拠点に設置しているサイネージでSV.LEAGUEの試合映像などを映し出したり、地元クラブの選手に支社への表敬訪問をしていただき、まずは社内にファンを増やすことが優先事項だと考えました。

菅原 最初はクラブをご存じなかった支社の方が、途中から試合結果をチェックするほどファンになってくださり、クラブ側も刺激となっていると思います。



大同生命保険株式会社
スポーツ・地域振興推進室長

中田 貴士

Takashi Nakata

高校・大学時代はバレーボール部に所属し、トップチームで活躍。2004年大同生命保険株式会社入社。2025年4月より現職。

中田 実際に各クラブをまわらせていただいて、これまで各クラブと地元との交流はあまりなされておらず、母体企業が福利厚生の一環で活動を後押ししてきたクラブが意外とあることに驚きました。これまでは実業団としての色合いが濃かったのだと思いますが、これからは地域に根差したクラブ運営が必要で、クラブにとって地元ファンの存在がより重要になってくると感じています。そのためにも地元の人々との交流は積極的に行われるべきではないでしょうか。

菅原 現在、SV.LEAGUEはまさにそのような過去からの転換期を迎えています。熱心に応援してくださる支社の方々と接することで、地域との接点の重要性を選手やフロントも改めて肌で感じていると思います。

中田 初年度は社内を盛り上げる施策を重点的に行いましたが、次年度はいよいよ外部に向けた活動を本格化させます。2025年4月には、スポーツを通じた地域振興を担う「スポーツ・地域振興推進室」を新設しました。ただ、推進室主導ですべてのアクティベーションを進めるのではなく、地元の支社とクラブが直接コミュニケーションを取り合い、地域ならではの様々なアイデアで各地域を活性化する施策を進めてほしいと思っています。一方で、例えば、クラブと支社が『ハブ』となっていて、当社のお客さまである地元の中小

企業やクラブのスポンサー、自治体、地元金融機関など、地域のステークホルダーを巻き込んで新たなコミュニティを創出する施策も進めていて、こういった大規模な活動は本社も一体となって取り組んでいきます。

菅原 御社の本社と支社の役割分担は参考にさせていただいています。これまでクラブ側のニーズや課題をリーグが把握しきれていない部分がありましたが、御社との施策を通じて、お互いの持つ課題について話すきっかけも増えています。「ここはリーグに頼む範囲」「ここは支社とクラブで調整する」といった役割分担も徐々に形ができてきています。事業化することになり、様々な課題や葛藤を抱えているクラブもあると思いますが、リーグとしては悩みを共有いただくことでサポートの方法を考えられる部分もあると考えています。ところで、中田さんから見て初年度のリーグはいかがでしたか？

中田 MENはチケットが手に入らない試合があるなど、観客数が大きく増えましたよね。ただ、まだ“選手推し”で、クラブ全体を応援する“箱推し”にはなっていない印象です。家からクラブユニフォームを着て、アリーナに来てくれるような動きに成長してほしいと思っています。一方でWOMENの観客数を見ると、クラブやコンテンツに対して正当な評価がまだ得られていないと思っています。だって僕たち

が観に行ったら、デンソーエアービーズの試合の熱気はすごかったですよね！

菅原 チャンピオンシップ出場を決めた郡山での試合ですね。

中田 選手も観客も「絶対にセミファイナルに行くんだ！」という一体感で、その熱気が会場全体を包んでいた。弊社の看板が掲げられた会場で、あれだけ盛り上がる試合をやってくださると「タイトルパートナーをやって、本当に正解だったな」と思います。私たちが「世界最高峰のリーグを目指す」というビジョンに表立って貢献できることは少ないですが、地域を支え、クラブと地元との接点、そして地元ファンを増やすことには貢献できると考えています。それが日本全体で応援するSV.LEAGUEを育てることとなり、世界最高峰のリーグへとつながっていくと思っています。そのためにもリーグ、クラブと共に地域の課題解決を行ない、お互いに高め合っていきたいと思っています。



公益社団法人SVリーグ
事業開発グループ マネージャー

菅原 尚子

Shoko Sugawara

2019年V.LEAGUEに入職。下部リーグの競技運営や、広報業務を経て、現在はパートナーセールスや協業事業を担当。



全国の子どもたちにバレーボールを 届ける「明日夢プロジェクト」に協賛

2024年9月26日、SV.LEAGUEと株式会社リクルートスタッフィングは、2024-25シーズンにおけるプリンシパルパートナー契約を締結しました。同社は企業ビジョンである『「らしさ」の数だけ、働き方がある社会』の実現に向け、スポーツ応援ステートメント『「がんばれ!」は、めぐる』のもとスポーツ支援をしており、バレーボールを通じて地域社会の発展に貢献し、人々を元気にしたいというリーグの理念に賛同いただき、今回の締結となりました。

同社には、リーグが2012年からOB・OG選手と共に取り組んでいるバレーボール普及活動「明日夢(みらい)プロジェクト」に支援いただき、2025年4月～7月には「リクルートスタッフィング presents 明日夢プロジェクト」を実施。クラブのOB・OG選手



が全国各地を訪れ、未来のバレーボール界を担う子どもたちにバレーボール教室を行うもので、トップレベルで培った技術や経験を伝えるだけでなく、バレーボールの楽しさを伝え、応援するプログラムとなっています。

SVクラブのない地域では、トップレベルのプレーを見る機会は多くありません。クラブのないエリアでも教室活動を行い、裾野を広げることは重要だと考え、今季は全国10カ所をまわり、高知県ではテレビ高知でその模様が放送されました。

2024-25 大同生命 SV.LEAGUE MEN CHAMPIONSHIP Finals では、

LaLa arena TOKYO-BAYにてバレーボール経験者の平野ノラさんをスペシャルゲストに迎え、実際に試合が行われたコートでバレーボール教室を開催。プログラムでは参加した保護者と子どもたちにアンケートにご協力いただいており、今後は寄せられた声を元に、より良いプログラムへと進化させていきます。

同社には、選手の「らしさ」を伝え、ファン・選手双方の「がんばれ!」の想いを届けることを軸に、シーズンにおける選手、ヘッドコーチ、クラブの功績を讃える年間表彰式「SV.LEAGUE AWARDS 2024-25」のタイトルパートナーとしてもご支援いただいています。

来シーズンも多くの共創により、さらなる発展を共に目指していきたいと考えています。

能登の復興支援を目的とした SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25 ISHIKAWAに協賛

2024年11月12日、「世界最高峰のリーグを目指す」というビジョンを掲げるSV.LEAGUEのチャレンジ精神に共鳴いただき、株式会社三菱UFJ銀行とトップパートナー契約を締結しました。

2024年1月の能登半島地震、9月の能登豪雨で甚大な被害を受けた石川県への復興支援を目的とし、2025年1月25日・26日に石川県かほく市で開催した「MUFG SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25 ISHIKAWA」では、スローガンである「能登とともに。」に共感をいただき、「ともに支援したい」とタイトルパートナーとして参画いただくことになりました。同イベントではMVP受賞選手に対し、MUFG賞として能登野菜が贈呈されたほか、チャリティオークションにもご支援いただき、オール



スター出場選手の直筆サイン入り公式試合球やスペシャルユニフォームなどを出品。落札総額は13,850,024円となりました。他にも地元支店の行員の方々に、出場選手による義援金募金活動へのご協力をいただくなど、さまざまなサポートをいただきました。

また、同行のお客様を対象に限定アクリルスタンドがプレゼントされる「タイトルパートナー就任キャンペーン」なども展開されました。

来シーズンもバレーボールのファンエンゲージメントを通じ、同行とさまざまな活動を行い、地域社会支援に共に取り組んでいきます。



BEYOND THE COURT

BEYOND THE COURT

SV.LEAGUEは、バレーボールの持つ力を最大限に活用し、多岐にわたる社会貢献活動を展開しました。

石川県で開催されたオールスターゲームでは、能登半島地震からの復興支援として、全国の学生が能登復興のアイデアをプレゼンするイベント「NEO AWARD HOKURIKU」を実施するとともに、そのアイデアから生まれた金属製ペーパーウェイト「Stone」などの展示販売を行うなど、スポーツイベントを通じて地域の経済活性化と復興支援に繋がる具体的な取り組みを実施しました。

リクルートスタッフィングpresents 大同生命SV.LEAGUE AWARDS 2024-25では社会貢献活動に顕著な功績を上げたクラブを称える「最優秀社会連携クラブ賞」を創設し、初年度は岡山シーガルズとウルフドッグス名古屋を表彰しました。

「世界最高峰のリーグ」を目指す上で不可欠な国際連携において、SV.LEAGUEは初年度から積極的に活動を展開しました。

2025年5月にはアジアクラブチャンピオンを決める大会「AVC MEN'S CHAMPIONS LEAGUE」を日本で開催。大阪ブルテオンが準優勝を果たし、2025年12月に開催が予定されているFIVB男子世界クラブ選手権への出場権が与えられました。また2025年4月には韓国バレーボール連盟（KOVO）との提携を発表。国際的な選手交流やリーグ運営ノウハウの共有を開始しました。これは、アジアにおけるバレーボール界の発展を牽引する重要な一歩となります。

今後は初年度の経験を糧に社会貢献活動と国際展開を加速させていきます。バレーボールの力を最大限に活かし、人々に感動と活力を提供するとともに、世界最高峰のリーグにふさわしい活動を続けていきます。

SV.LEAGUEではミッションの柱のひとつである「社会とつなぐ」の実現のため、リーグ、クラブ、パートナー企業が共創し、社会貢献活動を行っています。2024-25シーズンは能登の被災支援や地域活動など、多数の活動を行いました。

大同生命保険支社と近隣クラブの地域連携活動



タイトルパートナーの大同生命保険株式会社では、各クラブと支社が連携をして、さまざまな地域活動を行いました。小学生バレーボール大会への協賛や、シンポジウムの開催、「つなげる施策」としての新たなコミュニティの創出、クラブOGによるバレーボール教室、身体障碍児童へのスポーツ体験の場の提供など、多彩な視点から、さまざまな地域連携のアイデアが生まれ、多くの方々のご協力のもと、初年度から多くの活動を行っています。

MUFG SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25 ISHIKAWA

SV.LEAGUEとなって初めてのオールスターゲームは「能登とともに。」を大会スローガンとし、能登の被災地支援を目的に行われました。イベントの収益は被災地支援のために寄付されました。また石川県への義援金に加え、県内の小中学校へオールスターゲーム記念球を寄贈しました。会場では地元の子供たちを対象に、出場選手によるバレーボール教室や募金活動などを開催。また現地に足を運べなかった方へのオンラインでの募金活動やチャリティオークションも行いました。



骨髄バンクの普及支援

SV.LEAGUEは「骨髄バンク」の理解促進や普及活動を支援しています。2024-25 大同生命SV.LEAGUE CHAMPIONSHIP Finalsでは、骨髄バンクの「#つなげプロジェクトオレンジ」の一環として、骨髄バンクの活動を日頃から応援してくださっている方々を対象に、特別観戦席「#つなげプロジェクトオレンジシート」への招待を行いました。

明日夢プロジェクトの開催

リーグが2012年からOB・OG選手と共に取り組んでいるバレーボール普及活動「明日夢(みらい)プロジェクト」に、プリンシパルパートナーのリクルートスタッフィングが協賛。リーグの元選手が全国各地を訪れ、小学生を対象にバレーボール教室を行い、未来を担う子どもたちの育成を支援しています。



最優秀社会連携クラブ賞の授与

SV.LEAGUEではクラブライセンスの基準として、バレーボール教室や生涯スポーツプログラムの提供など、地域コミュニティとの連携を掲げています。2024年4月～2025年3月に実施した地域貢献活動において、活動内容及び実施回数、チームからの参加人数、地域からの参加人数の評価項目から、実行委員による投票により、最優秀社会連携クラブ賞を決定しています。

2024-25 最優秀社会連携クラブ賞



WOMEN 岡山シーガルズ

受賞理由 活動の質・量ともに秀で、ホームタウンとの事業タイアップをしているところ。また活動の発信力が素晴らしかった。また、地元密着でチーム運営をしていて、シーズン中も多くの地域活動を推進していた。



MEN ウルフドッグス名古屋

受賞理由 さまざまな地域イベントにもチームマスコットを有効活用し、地域の皆様との接点を多く創出し、チーム認知度を向上。安定的なホームゲーム運営に繋げるなど、すべての項目において、他チームとの比較で優位を保っている。また子育て世代からシニア世代までを対象にした活動で地域課題に向き合い、その解決の一助になることを目指し、活動に取り組んでいる。

海外でのメディア露出

SV.LEAGUEはグローバルマーケットへの認知向上のため、世界的な映像制作・配信エージェンシーのStory10と、グローバル配信ネットワークの構築と映像提供の連携を行うことを決定しました。

Story10が配信したSV.LEAGUEの動画は、2024-25シーズン終了までに放送とデジタル配信を通じて93のマーケットに到達。また501のメディアに取り上げられ、そのうち65媒体と35マーケットは、放送配信によるものでした。

放送による露出はタイと中国で最も多く、アメリカ、カナダ、イギリスでもインプレッションを獲得しています。

また、海外向けのウェブサイトやSNSのインプレッションは計400万回を記録しました。これらのメディア露出全体で、792,000ドルの広告換算価値(AVE)に相当すると評価されています。

SV.LEAGUEでは「世界最高峰のリーグを目指す」のビジョンの達成に、今後も国際コミュニケーションの実施が必要だと考えています。

メディアでの配信数

501

想定広告換算価値

\$ 792,000

デジタル配信の
インプレッション数

400

万回

STORY10による
映像配信

93

マーケットに到達

Volleyball Worldとの
パートナーシップ契約締結

公益社団法人SVリーグは、世界バレーボール連盟(FIVB)の事業会社である、Volleyball World(VW)と、日本国外への長期的な放送・配信パートナーシップの契約を締結しました。VWは世界クラブ選手権大会やバレーボールネーションズリーグなどの国際大会を主催し、世界のトップリーグやアジアバレーボール連盟ともパートナーシップ契約を結んでいます。また、VWが運営するバレーボール専門OTTサービス「VBTV」は、世界で150万人以上の会員を有しています。我々のこのパートナー契約も国際的な認知拡大に大きく貢献すると考えています。



©AVC

国際大会への挑戦

SV.LEAGUEは、日本バレーボール協会との共催により「AVC MEN'S CHAMPIONS LEAGUE JAPAN 2025」を開催しました。

本大会は、アジアバレーボール連盟が主催する、アジア王者を決めるクラブ戦です。従来の「アジアバレーボールクラブ選手権」からリブランディングされ、今大会が記念すべき日本での初開催となりました。アジア各国の12チームが出場し、その頂点に立った上位2チームは、2025年12月開催予定のFIVB男子世界クラブ選手権への出場資格を得ます。本大会ではサントリーサンバーズ大阪と大阪ブルテオンが出場しました。またアジアバレーボール連盟(AVC)のラモン・スザラ会長にもご臨席を賜り、大会終了後には記者会見も行われました。SV.LEAGUEは今後もAVCと連携をし、アジア全体のバレーボール人気を押し上げていきます。

THAILAND



2024-25シーズンでは、タイ女子代表選手の半数近くがSV.LEAGUEのクラブでプレーしていることから、現在、タイ国内でも大きな注目を集めています。SV.LEAGUEではタイのファンと継続的なコミュニケーションを図るとともに、ファン層の拡大を視野にさまざまな施策を行いました。

タイ向けコンテンツの配信

タイの視聴者向けに、タイの大手スポーツメディア、SIAMSPORTSと提携。同社のSNSなどを通じ、合計再生数は想定値を大きく超える約141万回再生となりました。またタイ最大手の有料チャンネルでは、SV.LEAGUEチャンピオンシップを放送しています。また、SV.LEAGUEもタイ向けのInstagramとTikTokアカウントを創設。タイのインフルエンサーによる選手インタビューなど、タイ向けのコンテンツを多く提供。それぞれ36,000フォロワー、10,000フォロワーを獲得しています。



©OSAKA BLUTEON

Panasonic
ENERGY CUP
の開催

大阪ブルテオンとタイ王国バレーボール協会の協力により、2024年9月バンコクでJAPAN VOLLEYBALL ASIA TOUR IN THAILAND2024「PanasonicENERGYCUP」を行いました。開催にあたっては、ファンミーティングなども実施し、現地ファンと多くの交流を持ちました。

BRAZIL



2025年、日本とブラジルは「日ブラジル修好通商航海条約」締結130周年を迎えました。SV.LEAGUEには現在、6名のブラジル代表選手が所属しています。SV.LEAGUEでは、スポーツを通じ、両国間の親善と友好を深めることに貢献するべく、2選手からの日伯友好メッセージを公式SNSで発信。クラブや政府機関など、関係諸団体へのメンションの依頼も行いました。

Rosamaria
MontibellerRicardo
Lucarelli Souza

KOREA



国際戦略の一環として、SV.LEAGUEは韓国のプロバレーボールリーグを運営する韓国バレーボール連盟(KOVO)との提携を締結しました。この提携はSV.LEAGUEにとって、初の海外リーグとの協力関係になります。

両リーグ間での選手やコーチの移籍の活性化、ノウハウの共有、定期的な交流について合意され、これは両リーグの競技力の向上やリーグの発展・活性化に寄与すると考えています。また、協力を深化させることで、アジア全体のバレーボール競技力向上に向けた重要なステップになるとも考えています。



SV.LEAGUE 2024-25 Annual Report

発行 公益財団法人SVリーグ
制作 スカイライトコンサルティング株式会社
制作協力 株式会社インフォバーン
編集 林田順子
カメラマン 藤牧徹也 (P34-35)
デザイン 鈴木彩子



TITLE PARTNER



PRINCIPAL PARTNER



TOP PARTNER



GOLD PARTNER



SUPPORTING PARTNER

